

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 宮城県大崎市立鬼首小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他(例: 小中高一貫)
所在地 〒989-6941
宮城県大崎市鳴子温泉鬼首字八幡原19
E-mail osaki_onikoube@educ.osaki.miyagi.jp
Website http://www2.educ.osaki.miyagi.jp/onikobe-s/index.html
幼児児童生徒数 男子 5名 女子 9名 合計 14名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要(800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「ふるさと鬼首」を活動テーマとして、ESDを重要な柱と捉え、ESDの実践を通して地域の良さを感じると共に、郷土を愛し、郷土に誇りを持ち、郷土の発展に寄与する力の育成を目標とした。

具体的には、【視点1】鬼首の自然、人、もの等のすばらしさを総合的に学ぶ、【視点2】鬼首の地を愛し、将来の鬼首に目を向けると共に、現在及び中・長期的な展望を考える、【視点3】地域との協働による学習プログラムの構築により、継続的な学習をする、を柱に、

- ① 1・2年 生活科 「どきどき わくわく まちたんけん」に係わる活動
- ② 3・4年生総合的な学習の時間 「鬼首うまいもの探し」に係わる活動
- ③ 5・6年生総合的な学習の時間 「鬼首再発見」に係わる活動
- ④ 5・6年生総合的な学習の時間 「鬼首神楽再発見」に係わる活動
- ⑤ 全学年での体育・クラブ活動(アルペンスキー学習・クロカンスキー学習)を行った。

① 1・2年 生活科「どきどき わくわく まちたんけん」に係わる活動
地域の自然、人、ものと自分たちとの関係に気付くとともに、地域の良さに気付くことを目標に、身近な地域に出かけ、さまざまな場所を調べたり、地域の人との関わりを広げたりした。自分たちの地域には、すてきな人や場所がたくさんあることが分かり、地域への親しみと愛着をもつことができた。自分の調べたこと、体験したことをクイズ等にまとめて発表することができた。

② 3・4年生総合的な学習の時間 「鬼首うまいもの探し」活動

地域で生産されている農作物を調べる活動を通して、生活と自然環境、地域の人々とのかかわりに気付くことを目標に、鬼首で生産しているそばの種まきを行い、成長の様子を観察する。収穫した後、親子でそば打ちをし、体験したことや調べたことを全校児童や、地域の方々の前で発表した。

③ 5・6年生総合的な学習の時間 「鬼首再発見」に係わる活動

鬼首の自然、文化、歴史、産業、観光資源などを再度調べ直し、未来のより良い鬼首を考え、ふるさとを愛する気持ちを育てることを目標に、学区内の農園の協力をいただき、ブルーベリーの摘み取り、ジャムづくり、販売体験を行った。11月にはお世話になった地域の方々を招待し発表会を行った。

④ 5・6年生総合的な学習の時間 「鬼首神楽再発見」に係わる活動

鬼首に伝わる伝統芸能「鬼首神楽」の大切さを感じ、意欲をもって舞うことを目標に、鬼首神楽保存会の皆様に指導していただき練習を重ねた。11月の発表会で堂々と舞うことができた。

⑤ 全学年での体育・クラブ活動（アルペンスキー・クロカンスキー）

鬼首の自然環境の特色を生かした冬のスポーツに親しむ。昔から生活に根付き、冬場の生活の一部であったスキーについて学ぶと共に、アルペンスキー、クロスカントリースキーの技術向上を図ることを目標に、校庭やオニコウベスキー場で活動を行い心身ともにたくましさを身に付けた。



① の写真（まちたんけん） たけのことり



② の写真（そば打ち）



③ の写真（ブルーベリージャム販売）



⑤ の写真（鬼首神楽発表）



④ の写真（左：アルペンスキー・右：クロカンスキー）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項1-2、2-1に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(ふるさと教育・協働教育)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

ユネスコスクールホームページ

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2、 1-3 に対応

大崎市教育委員会で発行している「大崎市の教育」という冊子の中に、鬼首小学校の特色ある活動の1番目に、「ユネスコスクールを通した『生きる力』の育成」を取り上げてもらい、鬼首小学校の教育活動の柱と位置付けている。

教育課程への位置づけとしては、1・2年生は生活科の学習の中に、3・4年生及び5・6年生では、総合的な学習の時間と体育・クラブ活動の指導計画にしっかりと位置付けている。

指導内容については学期ごとに反省を行い、その学期のうちに改善できるものについては改善を図り、その学期で改善できないものについては、次年度の計画に生かしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

年度当初に、校務分掌の中にユネスコスクール担当者をしっかりと位置付け、4月から組織的に活動できるように体制づくりを行っている。また、打ち合わせや職員会議で常にユネスコスクールについて、共通理解を図るようにしている。

また、ユネスコスクールESDアシストプロジェクトの支援をいただき、小規模校ではなかなか難しい設備や教材の確保を行ったり、活動の費用に充当させていただいている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学期ごとに行っている教職員の学校評価以外に、7月と12月に学校評議員と学校関係者評価委員の方々に、来校いただき外部評価を行っている。この評価については、市教委及び保護者にも報告を行っている。

成果としては、100%の児童が、学習後「鬼首が好きだ。」答えた。自然や歴史等の文化にたっぷりと触れたことで、鬼首を愛し、鬼首に誇りをもつことができた。

課題としては、新学習指導要領を踏まえて、これまでの学習、これからの学習の内容を再考し、鬼首の将来を見つめた学習にしていきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

毎月発行している学校だよりに活動成果を掲載し、児童がいない家庭にも印刷し配布している(鬼首地区全世帯)。また、各学級から保護者に対してきめ細かな学級だよりを配布している。学校のホームページにも活動成果の報告をこまめに行っている。

これらの発信により、地域住民から学校に対して奉仕的な作業で多大なる協力をいただいたり、学習活動の支援をいただいたり、資金的な面で援助をいただいたりしている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

鬼首地区公民館や鳴子公民館、NPO法人鬼首山学校・鬼首地域づくり委員会、鬼首神楽保存会・心鼓会、鳴子総合支所・鳴子社会福祉協議会、鳴子ダム等の関係諸団体と緊密に連携を図り、授業の支援や学校行事の支援などをいただいていた。

昨年9月には東京の明星大学の学生9名が、鬼首小学校の活動をホームページで見て、1週間鬼首に宿泊し、授業支援や交流活動を行った。東京に帰ってからも交流は続いている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

同じ鳴子町内にある鳴子小学校とは日頃より交流活動を行っている。昨年7月8日には、同じ大崎市内にある大貫小学校と保護者同士で交流会を行い、へき地校のメリット・デメリットについてワールドカフェスタイルでグループ討議を行い情報を交換した。また、石巻市の鮎川小学校とは年に1回8月に児童交流会を行っている(鮎川と鬼首を交代で)。今年度(昨年8月9日~10日)は牡鹿保健福祉センター「清優館」を会場に、プールで泳いだり、一緒に食事をしたり、ゲームをして楽しんだ。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

大崎市では登下校用に使っているスクールバスを校外学習等に活用することができる。ただし学校規模によって活用できるのべ台数が決まっている。平成29年度鬼首小学校はのべ4台になっている。しかし、鬼首地区は広く、地区内で活動する場合でも徒歩で移動できる場所は限られており、どうしてもスクールバスが必要となる。ユネスコスクールに関係のある活動は別枠で設けられており、この枠を活用して児童の学習範囲を広げることができている。大変学習効果が上がっている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ① 1・2年 生活科 「どきどき わくわく まちたんけん」に係わる活動
地域の自然、人、ものと自分たちとの関係に気付くとともに、地域の良さに気付くことを目標に、身近な地域に出かけ、さまざまな場所を調べたり、地域の人との関わりを広げたりする。6月～10月 発表は11月
- ② 3・4年生総合的な学習の時間 「鬼首のめぐみ」に係わる活動
地域で生産されている農作物を調べる活動を通して、生活と自然環境、地域の人々とのかかわりに気付くことを目標に、成長の様子を観察・収穫した後、体験したことや調べたことを全校児童や、地域の方々の前で発表する。
6月～10月 発表は11月
- ③ 5・6年生総合的な学習の時間 「鬼首再発見」に係わる活動
鬼首の自然、文化、歴史、産業、観光資源などを再度調べ直し、未来のより良い鬼首を考え、ふるさとを愛する気持ちを育てることを目標に、学区内の農園の協力をいただき、ブルーベリーの摘み取り、ジャムづくり、販売体験を行う。
6月～10月 発表は11月
- ④ 5・6年生総合的な学習の時間 「鬼首神楽再発見」に係わる活動
鬼首に伝わる伝統芸能「鬼首神楽」の大切さを感じ、意欲をもって舞うことを目標に、鬼首神楽保存会の皆様に指導していただく。
10月～11月 発表は11月
- ⑤ 全学年での体育・クラブ活動（アルペンスキー学習・クロカンスキー学習）
鬼首の自然環境の特色を生かした冬のスポーツに親しむ。昔から生活に根付き、冬場の生活の一部であったスキーについて学ぶと共に、アルペンスキー、クロスカントリースキーの技術向上を図ることを目標に、校庭やオニコウベスキー場で活動を行い心身ともにたくましさを身に付ける。
1月～2月